

【サプライチェーン排出量】

11月30日の日本経済新聞において、「政府が29日に二酸化炭素（CO₂）の排出に負担を求める『カーボンプライシング』（本誌2022年9月号にて解説）を2030年代に本格導入する調整に入った」と報じられました。

今回は、CO₂排出量算定に関する「サプライチェーン排出量」について説明します。

1. サプライチェーン排出量とは

サプライチェーンとは、原料調達・製造・物流・販売・廃棄等、企業活動における一連の流れ全体をいい、そこから発生する排出量を一般的に「サプライチェーン排出量」と呼びます。世界的にカーボンニュートラル（本誌2021年10月号にて解説）への取り組みが加速する中で、事業者自らの排出量だけでなく、事業活動に関係するあらゆる排出量を算定対象とすることが重視されています。

2. サプライチェーン排出量の概要

サプライチェーン排出量は、世界的な組織で「GHG プロトコル」が発行した算定基準である「Scope3 基準」により算出されます。自社の排出量である「Scope1」「Scope2」と、サプライチェーンの上流・下流における間接排出である「Scope3」の3つで構成され、その合計がサプライチェーン排出量となります。また、「Scope3」は15の 카테고リーに分類されています。



Scope1：事業者自らによる温室効果ガスの直接排出(燃料の燃焼、工業プロセス)
Scope2：他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出
Scope3：Scope1、Scope2以外の間接排出(事業者の活動に関連する他社の排出)

資料：環境省 HP

3. サプライチェーン排出量の重要性

冒頭でも触れましたが、カーボンプライシングは世界的な流れとなっており日本でも近い将来導入されることはほぼ確実と考えられます。

「まだ先のこと」「大手企業がやることで自分たちには関係ない」などと思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、サプライチェーン排出量の考え方においては上流・下流の間接排出についても算定対象となるため、大手企業だけでなくサプライチェーンにおける全ての事業者の排出量削減が求められると考えられます。そのため、今後は取引に際し排出量算定結果の開示を求められたり、より排出量の少ない他社商品にシェアを奪われたりといった事態も予想されます。

環境省では排出量算定に役立つ各種ツールを整備し、脱炭素経営に関する情報プラットフォーム「グリーン・バリューチェーンプラットフォーム」に掲載していますので、皆さんもカーボンプライシング導入に向けまずは排出量算定にチャレンジしてみても如何でしょうか。

閑話ひとつ

- ▶ 竹内まりやさんなど1980年代の都会的で洗練された音楽「シティポップ」がブームとなっています。1980年代の音楽には、シティポップに限らずアイドル歌謡にも名曲がたくさんあります。
- ▶ 私の80年代歌謡といえば、同世代である菊池桃子さんです。菊池さんといえば、2020年度に放映されたNHK朝の連続ドラマ「エール」で古関裕而の母役を演じたことで、福島県民にとっては馴染み深い存在かと思えます。
- ▶ 何年か前にNHKの番組で菊池さんが古関裕而の母の出身地である川俣町を訪れ、生家などゆかりの地を訪問していました。実は当研究所は古関裕而生家跡に所在しています。再び、福島で菊池さんのロケが行われることを待ちわびております。
- ▶ この1月号が発行される頃には2023年を迎えますが、菊池さんの今も若い美しい姿を拝見すると、「おっさん」の私もまた1年間若いつもりで過ごせます。それでは皆さま、本年も「福島の進路」をよろしくお願いたします。(HT)